

施策マネジメントシート(令和4年度目標達成度評価)

シート1

作成日 令和 5 年 10 月 2 日

施策体系

政策名(基本方針)	3	教育の健康	施策名	13	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成
-----------	---	-------	-----	----	---------------------

施策統括部	教育部	関係課	商工振興課
施策主管課	生涯学習課		

1 施策の目的と指標

対象	市民や市の出身者	意図	合志市の歴史、伝統文化に対する愛着をもつ
----	----------	----	----------------------

成果指標		単位
A	合志市の歴史、伝統文化に興味を持っている市民の割合(市民アンケート)	%
B	歴史、伝統文化を通して合志市に愛着を感じている市民の割合(市民アンケート)	%
C		
D		

2 指標等の推移

成果指標	30年度現状値	数値区分	2年度	3年度	4年度	5年度	評価	背景として考えられること	
A	%	52.2	成り行き値	52.2	52.2	52.2	52.2	△	市全体でみると若い世代の増加により地域の歴史や伝統文化への関心度が低い傾向にあることと併せて、新しい住民が増加していることが要因と考えられます。
			目標値	52.5	53.0	53.5	54.0		
			実績値	53.0	55.2	51.2			
B	%	45.0	成り行き値	44.9	44.8	44.7	44.6	△	転入者が年々増加し、地域の歴史や伝統文化への関心や愛着が薄くなることが考えられます。歴史・文化・産業に親しめる学習の機会を提供するなどの周知を図りましたが、わずかに目標値を達することができませんでした。
			目標値	45.5	46.0	46.5	47.0		
			実績値	46.8	46.8	46.4			
C			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						

※【評価】 ○:目標達成 △:目標をほぼ達成(-5%) ×:目標を未達成

事務事業数・コスト			2年度	3年度	4年度	5年度	
事務事業数		本数	5	6	5		
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	2,262	1,656	0	
		都道府県支出金	千円	0	10,000	0	
		地方債	千円	0	0	0	
		その他	千円	17	0	700	
		繰入金	千円	0	69	0	
		一般財源	千円	11,124	22,588	10,147	
	事業費計(A)		千円	13,403	34,313	10,847	0
	(A)のうち指定経費		千円	0	0	0	
(A)のうち時間外、特殊勤務手当		千円	0	0	0		
人件費	延べ業務時間		時間	2,660	4,270	3,185	
	人件費計(B)		千円	10,488	16,695	12,122	
トータルコスト(A)+(B)			千円	23,891	51,008	22,969	0

※成果指標の目標値設定とその根拠(上段)・成果指標の測定企画(下段)

A	合志市の歴史、伝統文化に興味を持っている市民の割合の成り行き値は、人口の増加は見込めるものの関心度についての大幅な増加は見込めないため、平成30年度の現状値で推移すると設定しました。目標値は、歴史資料館やまちめぐりふるさと探訪バスなどの内容充実に努め、市民に分かりやすい文化財の情報発信を図ることで令和2年度を52.5%とし、以降各年度0.5ポイントの増を目指し、令和5年度を54.0%と設定しました。
	市民アンケート
B	歴史、伝統文化を通して合志市に愛着を感じている市民の割合の成り行き値は、人口の増加に伴い地元への愛着心については希薄化していく社会が進むととらえ、平成30年度の現状値よりも微減傾向で推移すると設定しました。目標値は、地域づくりと一体となった文化財の活用や特に小中学生の郷土に対する理解を深めることで、郷土の再発見をしてもらう機会が増えることを踏まえ、令和2年度を45.5%とし、以降各年度0.5ポイントの増を目指し、令和5年度を47.0%と設定しました。
	市民アンケート

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

①施策の基本方針

- ・市民に分かりやすい文化財の情報発信の充実に図ります。
- ・文化財保護委員と連携し、歴史資料館の活性化及び文化財の点検・保護に努めます。
- ・伝統文化の保存・継承・育成に向けて、地域並びに関係団体との連携・支援を図ります。

②協働によるまちづくりの具体策(施策における市民と行政の役割分担)

市民(事業所、地域、団体)の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・市民は、文化財を次の世代に継承します。 ・地域は、地域づくりと一体となった文化財の活用と後継者育成に努めます。 ・企業や事業者は、地域行事への参加による協力を行います。

行政の役割(市がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ・市は、適正な文化財の保護、保存に努め、積極的な活用を図ります。 ・市は、情報発信の充実に学習機会の提供に努めます。 ・市は、小中学生の、郷土に対する理解を深めます。 ・市は、伝統文化を継承する団体との連携を図ります。

③施策の現状(第2期計画策定当初)と今後の状況変化

- ・歴史資料館の展示方法、来館者の増加促進など歴史資料館の充実が求められています。
- ・収蔵物の保管場所が不足しています。
- ・指定文化財の標柱、説明板等の老朽化による腐食や損傷が進み、分かりづらくなっています。
- ・保存・継承を行なう団体の後継者問題等により、伝統的郷土芸能の存続が危ぶまれています。
- ・所有者の高齢化や世代交代等により文化財への意識の希薄さが見られます。

④この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

(令和4年度(令和3年度振り返り)の施策評価における議会意見)

- ・「原田茂氏特別展」は単年度で終わらせずに、形を変えながらも毎年開催し、今後も郷土の偉人の発掘に努めること。
- ・「合志カルタ」は郷土の再発見のきっかけづくりである。市民へ積極的にアピールすること。
- ・文化財の標柱、説明板等の老朽化による腐食や損傷に対応すること。

(令和4年度(令和3年度振り返り)の施策評価における総合政策審議会意見)

- ・文化財や歴史資料館等の更なる啓発を図ること
- ・伝統文化の後継者や語り部等の人材育成を行うこと
- ・学校等と連携した郷土愛の醸成の取り組みを行うこと

4 施策の評価

①施策の振り返り(施策の方針、経営方針の達成度等)

※ 経営方針からの振り返り、貢献度評価の上位の事務事業を記載

(1)令和4年度経営方針からの振り返りは以下のとおりです。

①「郷土愛の醸成を図るため、教職員との連携を図り、小中学生がより身近に感じ、歴史・文化・産業に親しめる学習等の機会の提供に努めます。」については、歴史資料館主催の「子ども歴史科学体験教室」全10回中8回は実施することができ学習等の機会の提供に努めました。

②「市の歴史・伝統文化の魅力を市内外から更に関心を持たれるような情報発信に努めます。また、歴史資料館においては特別展の充実を図り、図書館及びマンガミュージアムとの連携や内容充実に努めます。」については、歴史資料館では、特別展「合志市ふるさとカルタ」展や「合志市ふるさとカルタ」を活用して、学校のタブレットに熊日電子ライブラリーのカルタ解説やゲームを作成するなど情報発信に努めました。また、歴史資料館事業として、「ふるさと探訪まちなめぐりバス」の開催を5回実施しました。図書館では、郷土コーナーに設置されていない文化財書籍を整理し、来年度に設置する準備を行いました。その他、マンガミュージアムと連携し「竹迫城城下文化財マップ」に載せるキャラクターを制作しました。

③「地域と学校が連携・協働する地域学校協働活動を推進し、伝統文化や郷土芸能などを継承するための後継者育成に努めます。」については、市内小学校の3年生を対象とした「昔のくらし」の学習や西合志中学校2年生の立志式における史跡巡りまた、合志小学校3年生を対象とした竹迫観音祭りの学習を教職員と共に行ない後継者育成支援に努めました。

④「新型コロナウイルス感染症対策で、中止となった伝統行事の支援に努めます。」については、祭りに必要な備品に対しての補助等を行ない、祭りが再開できる支援を行いました。

(2) 事務事業貢献度評価の結果では、令和4年度施策の成果を向上させるために貢献した事業は、ありませんでした。

②施策の課題(令和4年度の施策の振り返りから見る課題)

- ・歴史資料館を中心とした文化財を活用するための仕組み作りが必要です。
- ・収蔵物の保管先の確保及び整理作業室の設置が必要です。
- ・市民に分かりやすい文化財の情報発信と一層の環境整備が必要です。
- ・活動団体が主体的かつ持続可能な活動支援が必要です
- ・文化財保護委員をはじめ、文化財の活用を担う人材の育成が必要です。

5 施策の令和4年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて令和5年7月20日)

- ・合志市歴史資料館の情報発信、施設利活用について検討すること。
- ・遺跡、史跡などに市民が関心を持てるよう「ふるさとカルタ」を活用する等、環境整備を図ること。
- ・指定文化財及び伝統郷土芸能の継承をはじめ、後継者等の人材育成に向けた地域支援に努めること。
- ・歴史資料のデジタルアーカイブなどを目指し、マンガミュージアムと図書館とが連携し、双方の魅力を引き出す工夫をすること。
- ・試掘調査の増加に対応するため、埋蔵文化財調査体制の整備を図ること。

②総合政策審議会での指摘事項(令和5年8月3日、8月10日、9月1日のまとめ)

- ・ふるさとカルタを活用して郷土愛を醸成する取り組みを行うこと。
- ・伝統文化の後継者や語り部等の人材育成を行うこと。

③議会の行政評価における指摘事項(令和5年9月1日)

- ・「ふるさとカルタ」等を利用して、市の歴史・伝統文化の周知を図り、市民の関心を高めること。
- ・合併からまもなく20年。市民全員が、旧町の歴史や文化、思いを尊重し皆が幸せに感じるまちづくりを心がけること。
- ・コロナ禍や社会の変化により、中止や縮小となった伝統行事がある。調査をして支援に努めること。
- ・学校教育においても、市の歴史・文化・伝統を積極的に学べる環境の強化を図ること。

6 次年度に向けた取り組み方針

○政策推進本部 令和6年度合志市経営方針(令和5年10月2日)

令和6年度から施策13歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成 へ名称変更

- ①市指定文化財の掘り起こしや歴史・伝統文化の新たな価値付けを行なうとともに、ふるさとカルタやデジタルアーカイブ、地域学校協働活動等の活用など更に関心を持たれるような情報発信と後継者育成に努めます。
- ②歴史資料館においては特別展の充実を図るとともに、図書館やマンガミュージアムと連携し3館の魅力向上に努めます。
- ③人材不足等により活動が難しくなっている伝統行事について、状況を把握し支援に努めます。
- ④開発の増加が予想されるため、埋蔵文化財調査体制の強化に取り組みます。